

シンポジウム

国立自然史博物館の設立を目指して

～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～

参加費不要

平成31年2月1日(金)

13:00～17:00(受付12:30～)

沖縄銀行本店5階ホール

当日参加可能です。

プログラム

13:00～13:10 主催者挨拶 西田 睦(日本学術会議連携会員、
琉球大学・理事・副学長)

第一部

13:10～13:40 基調講演1

岸本健雄(日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学・客員教授)
国立沖縄自然史博物館構想

13:40～14:10 基調講演2

赤司善彦(市民ミュージアム大野城心のふるさと館・館長、九州国立博物館・名誉館員)
九州国立博物館の誘致活動と設立後の役割

14:15～15:35 沖縄経済の持続可能な発展に果たす自然史博物館の役割

伊波一也(沖縄銀行・常務取締役)

沖縄社会の熟成と発展に果たす企業の役割と責任

松浦啓一(日本学術会議連携会員、国立科学博物館・名誉研究員)
自然史標本の社会的意義

渡辺真人(産業技術総合研究所・ユネスコ世界ジオパーク評議員)
ジオパーク～自然史と社会をつなぐ～

宮崎 悠(一般社団法人キュリオス沖縄・代表理事)

自然史を応用して地域独自の観光コンテンツを創る

15:35～15:40 休憩

第二部

15:40～16:50 パネルディスカッション

司会 西田 睦(琉球大学・理事・副学長)

赤司善彦(第一部講演者)、大浜浩志(沖縄県環境部・部長)、馬渡駿介(北海道大学・名誉教授)、
松浦啓一(第一部講演者)、渡辺真人(第一部講演者)、斉藤成也(日本学術会議連携会員、
国立遺伝学研究所・教授)

16:50～17:00 閉会挨拶 長浜嘉孝(基礎生物学研究所・名誉教授)

自然史博物館は、国や社会の成熟度を示すバロメーターの一つと考えられていますが、我が国には国立の自然史博物館がありません。先人の努力によって集められた知の資料を未来へと繋ぐ場所が必要です。私たちは、沖縄の地に国立自然史博物館を設立することを目指して、これまで4回のシンポジウムを開催し、沖縄に造るべき国立自然史博物館について夢を語り、そして新たな自然史博物館の姿(コア施設と島嶼やヤンバルを有機的に結びつけたネットワーク型)を描いてきました。これまでの活動により、我が国における国立自然史博物館の必要性和重要性、また、沖縄に造るべき意義についてはコンセンサスが得られつつあると考えています。

沖縄に自然史博物館を設立する場合には、沖縄の持続的な発展や未来を担う子どもたちの育成にも貢献する必要があります。沖縄経済の自立と発展には「観光」は重要な要素です。また、次世代育成には「質の高い学びの場」の提供が不可欠です。今回のシンポジウムでは、国立自然史博物館が沖縄の未来形成に果たす役割と責務について、経済的な視点を入れつつ話題提供してもらい、話あっていこうと考えています。



主催:日本学術会議動物科学分科会、自然史・古生物学分科会、一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会
共催:琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄美ら島財団、沖縄生物学会、沖縄地学会、沖縄県
後援:沖縄県銀行協会、沖縄経済同友会、沖縄県経営者協会
協力:沖縄銀行

問い合わせ先

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
国立沖縄自然史博物館設立準備委員会・シンポジウム実行部会事務局
電話:098-895-8993 E-mail: takemura@sci.u-ryukyu.ac.jp